

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

東北大学の理念、目的に沿って、学部と大学院共通の志願者に求める学生像を定め、学部及び大学院それぞれの入試方法を示した東北大学アドミッション・ポリシーを定め、これに基づき、学部・研究科等ごとに具体的なアドミッション・ポリシーを定めている（資料 4-1-①-1、資料 4-1-①-2）。

各学部のアドミッション・ポリシーについては、教授会の議を経て、入学試験審議会（資料 4-1-①-3）が定めており、入学者選抜要項に記載するとともに、ホームページで学内外に公表している。

大学院については、研究科・教育部がアドミッション・ポリシーを定め、学生募集要項に記載するとともに、ホームページで学内外に公表している。

資料 4-1-①-1 東北大学アドミッション・ポリシー

東北大学アドミッション・ポリシー

東北大学の理念

百余年の歴史と輝かしい伝統を有する東北大学は、明治 40 年の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、優れた教育・研究を展開してきました。今後はこの実績を継承しつつ更なる飛躍を図り、世界をリードするワールドクラスの教育・研究拠点として、世界が直面する困難でかつ複雑な課題に挑戦し、人類社会の発展に大きく貢献します。

そのために、学部や大学院、研究所等、全学の総力を結集して、人類社会の未来を担う高い倫理性を備えた国際的リーダーを育成するとともに、世界水準の創造的な研究を展開し、その成果を広く社会へ還元することに努めます。

東北大学の特徴

①創立以来の個性的な伝統

創立後すぐに「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」といった個性的な理念を確立し、時代に応じてその内容を一層発展させています。

②教育環境に恵まれた総合大学

10 学部、16 研究科及び 6 研究所をはじめとする多数の研究組織・施設を擁し、研究所等のスタッフも教育に参加しています（教員約 3,000 人、学部学生入学定員約 2,400 人、大学院学生入学定員約 2,800 人）。

③研究大学

国際的な研究成果を多数生み出し、先端的研究と教育を一体的に進める大学です。

④積極的な地域連携・産学連携

地域や産業界との間に多様な連携を積極的に発展させています。

⑤魅力的な所在地

大学の大部分が、杜の都とも学都とも言われる快適な都市仙台の中心部に位置し、便利な都市機能と豊かな自然環境を兼備する環境にあります。

東北大学が学部志願者に求める学生像

東北大学の理念に共感し、

- ・ 21 世紀の人類社会の課題に対し研究者として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志

あるいは

- ・ 豊かな学識とリーダーシップを備える高度な職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志を持ち、これを実現する強い意志と学問に対するたくましい好奇心、その基礎となる優れた学力を備えた学生を求めています。

東北大学の入試方法（学部）

東北大学が求める学生を選抜するために学部、学科（系）、または、専攻ごとに一般選抜入学試験（一般入試）、アドミッションズ・オフィス入学試験（AO入試）および各種の特別選抜を実施します。

一般入試では、5～6教科の大学入試センター試験で幅広い基礎学力を評価するとともに、2～3教科の個別学力試験で本学の学修に適合する思考力や表現力を含むより高い学力を測る試験を行い、これらを主たる選抜資料として合格者を判定します。

東北大学を第一志望とする受験生を対象としたAO入試では、筆記試験、小論文試験、大学入試センター試験などを用いて幅広い基礎学力や思考力、表現力等を評価するとともに、面接試験や出願書類の内容によって豊かな人間性や強い学習意欲と学問に対する好奇心を評価します。

上記に加え、特別選抜入学試験（特別入試）では、多様な背景を持つ人材をそれぞれの特性に基づく試験により評価します。

東北大学が大学院志願者に求める学生像

東北大学の理念に共感し、

- ・ 21 世紀の人類社会の課題に対し世界的水準の研究者として優れた貢献をしようとする志

あるいは

- ・ 豊かな学識とリーダーシップを有し、高度に専門的な職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志を持ち、これを実現する強い意志と学問に対するたくましい好奇心、その基礎となる広い視野と優れた専門的知識・技能を備えた学生を求めています。

東北大学の入試方法（大学院）

東北大学大学院では、それぞれの募集単位における求める学生像に基づき、様々な背景を持つ受験者に対して複数の受験区分と受験機会を設け、それぞれにおいて面接試験、研究計画を含む出願書類の内容、学力試験、外部試験などによって本学大学院の学修に適合する資質や能力、専門性を評価します。

資料 4-1-①-2 各学部・研究科等アドミッション・ポリシー掲載ホームページ

学部	http://www.tnc.tohoku.ac.jp/admission_policy.php
大学院	
文学研究科	http://www.sal.tohoku.ac.jp/gradent.html
教育学研究科	http://www.sed.tohoku.ac.jp/grad/entrance/policy.html
法学研究科	http://www.law.tohoku.ac.jp/admissions/graduate/admission_policy.pdf
法科大学院	http://www.law.tohoku.ac.jp/lawschool/admission/2014/boshuyoukou.pdf
公共政策大学院	http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/exam/2013/ad_policy.html
経済学研究科	http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/graduate/index.html
会計大学院	http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/kaikei/mokuteki/
理学研究科	http://www.sci.tohoku.ac.jp/about/admission-policy.html
医学系研究科	http://www.med.tohoku.ac.jp/post-grad/admission.html
歯学研究科	http://www.dent.tohoku.ac.jp/examine/mastar/index.html
〃	http://www.dent.tohoku.ac.jp/examine/doctoral/index.html
薬学研究科	http://www.pharm.tohoku.ac.jp/entrance/annai_d.shtml
〃	http://www.pharm.tohoku.ac.jp/entrance/admission-policy.shtml
工学研究科	http://www.eng.tohoku.ac.jp/media/files/pdf/admission/grad/m1_h2704.pdf
農学研究科	http://www.agri.tohoku.ac.jp/j020200/id0003.html
国際文化研究科	http://www.intcul.tohoku.ac.jp/outline/admission-policy.html
情報科学研究科	http://www.is.tohoku.ac.jp/entrance/exam/pdf/recomm26042507.pdf
生命科学研究科	http://www.lifesci.tohoku.ac.jp/exam/exam_admission_policy/
環境科学研究科	http://www.kankyo.tohoku.ac.jp/mezasu.html
医工学研究科	http://www.bme.tohoku.ac.jp/admission/
教育情報教育部・研究部	http://www.ei.tohoku.ac.jp/html/pdf/entrance_ex/exm_doc02_h2604.pdf

大学調べ

資料 4-1-①-3 入学試験審議会規程 (抜粋)

<p>第2条 審議会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 学部及び大学院の入学者選抜に関する事項 二 大学入試センター試験の実施に関する事項 三 入学試験の制度に関する事項 四 高度教養教育・学生支援機構に置かれる入学試験に関する業務を行う業務センターの運営に関する事項 五 その他入学試験に関する事項 <p>第8条 審議会に、入学者の選抜方法及び入学試験の広報に関する事項を調査・研究し、及び企画させるため、入試企画・広報委員会を置く。</p> <p>第14条 審議会に、一般選抜入学試験、アドミッションズ・オフィス入学試験及び特別選抜入学試験並びに大学入試センター試験に関する事項を企画し、及び実施させるため、入試実施委員会を置く。</p>
--

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kitei-etsuran/reiki_honbun/u101RG00001639.html

【分析結果とその根拠理由】

東北大学の理念・目的に沿ったアドミッション・ポリシーが明確に定められ、それを踏まえて、各学部、研究科等の目的・求める人物像等を踏まえた学部・研究科等のアドミッション・ポリシーが定められている。

これらのことから、東北大学のアドミッション・ポリシーは明確に定められていると判断する。

観点4-1-②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点到係る状況】

学士課程については、各学部のアドミッション・ポリシーに基づき、学部ごとに入学者選抜方法を定めている。入試方法は資料4-1-②-1(1)に示すとおりであり、学部ごとにアドミッション・ポリシーに沿って多様な選抜方法を選択し、実施している。(資料4-1-②-1(1)、別添資料4-1-2-1)

特に、平成12年度に他の国立大学に先駆けて導入したAO入試については、「多様な資質や能力を持つ人を、広い範囲から選抜する」ことを狙いとして継続実施し、全学部がAOⅡ期（センター試験を課さず、筆記試験、面接試験等により選抜）またはⅢ期（センター試験に加え、面接試験等で選抜）を実施しており、AO入試による募集人員は入学定員の18%を占めている。本学のAO入試では、学習意欲や志願理由等を確認するための書類審査、面接試験等に加え、学力を担保するため、センター試験の成績による学力確認、筆記試験や小論文試験等を実施し、受験者一人ひとりを審査する丁寧な選抜を行っている。その結果、志望する学部の専門分野への関心が強く、幅広い基礎学力を備えた学生が入学しており、AO入試による入学者への評価は高い（別添資料4-1-2-2）。

また、世界的に優れた才能を有する学生を積極的に入学させる方策として、平成23年度から「科学オリンピック入試」を導入し、24年度以降、国際科学オリンピックにおいて優秀な成績を修めた学生が入学している。さらに、平成23年度から、留学生教育プログラムとして、英語による授業のみで学位が取得できる「国際学士コース入試」を導入した。同年10月に17名の学生が入学し、以降、毎年志願者・入学者が増加している。

大学院課程については、資料4-1-②-1(2)に示すとおり、研究科等毎に多様な入試方法を採用しており、外国人留学生や社会人学生等、多彩な人材が入学している（別添資料4-1-2-3）。選抜方法としては、出願書類による選抜に加え、筆答試験、口述試験、小論文及び面接による選抜を行っており、別添資料4-1-2-4に例示するとおり、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行っている（別添資料4-1-2-4）。

資料4-1-②-1 入学者選抜方式一覧（平成26年度）

(1) 学部

区分	定員	一般選抜		AO入試			特別入試				
		前期	後期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	推薦	科学オリンピック	帰国	私費	国際学士コース
文学部	210	200		10						若干人	
教育学部	70	60			10					若干人	
法学部	160	140			20					若干人	
経済学部	260	185	35		40					若干人	
理学部	324	222	58	44				若干人		若干人	若干人
医学部 医学科	135	120			15					若干人	
医学部 保健学科	144	119			25					若干人	
歯学部	53	43			10					若干人	
薬学部	80	65			15					若干人	
工学部	810	591		104	115	若干人		若干人	若干人	若干人	若干人
農学部	150	120			15		15			若干人	若干人
合計	2,396	1,865	93	158	265	若干人	15	若干人	若干人	若干人	若干人

選抜方法

一般選抜	調査書 学力試験(大学入試センター試験、個別学力試験) 面接試験(医)
AO 入試Ⅱ期	出願書類(全) 筆記試験(文・理) 口頭試験(文) 面接試験(理・工) 小論文試験(工)
AO 入試Ⅲ期	出願書類(全) 大学入試センター試験成績(全) 面接試験(全) 小論文試験(医・工)
AO 入試Ⅳ期	出願書類 小論文試験 面接試験
推薦入試	推薦書 志願理由書 調査書 面接試験
科学オリンピック入試	出願書類(全) 面接試験(全) 筆記試験(理) 小論文試験(工)
帰国生徒入試	出願書類 大学入試センター試験成績 小論文試験 面接試験
私費外国人留学生入試	出願書類(全) 日本留学試験の成績(全) 学力試験(理・医保放・医保検・歯・薬・農) 面接試験(全)
国際学士コース入試	提出書類(全) 面接試験(全) 小論文及び口頭試験(理) 小論文試験(工)

平成 26 年度入学者選抜要項

(2) 大学院

研究科等	課程の別	主な試験の種類
文学研究科	前期 2 年の課程	(秋期) 一般選抜 社会人特別選抜 (社会人リフレッシュ・コース) (春期) 一般選抜 社会人特別選抜 (社会人リフレッシュ・コース)
	後期 3 年の課程	(秋期) 社会人特別選抜 (社会人研究者コース) (春期) 一般選抜 社会人特別選抜 (社会人研究者コース)
教育学研究科	前期 2 年の課程	(第 1 期) 一般選抜 社会人特別選抜 (第 2 期) 一般選抜 社会人特別選抜
	後期 3 年の課程	一般選抜 (第 1 期) 社会人特別選抜 (第 2 期) 社会人特別選抜
法学研究科	前期 2 年の課程	4 月入学 一般選抜 特別選抜 10 月入学 特別選抜
	後期 3 年の課程	4 月入学 法政理論研究コース 後継者養成コース 国際共同博士課程コース 10 月入学 法政理論研究コース 後継者構成コース 国際共同博士課程コース
法科大学院	法科大学院の課程	一般選抜
公共政策大学院	専門職学位課程	一般選抜(追加含む) 政策法務教育コース
経済学研究科	前期 2 年の課程	4 月入学 一般選抜 (第 I 期・第 II 期) 外国人特別選抜 社会人特別選抜 3 年次学生を対象とする試験 10 月入学 一般選抜 外国人特別選抜 社会人特別選抜
	後期 3 年の課程	4 月入学 一般選抜 社会人特別選抜 10 月入学 一般選抜 社会人特別選抜
会計大学院	専門職学位課程	4 月入学 公認会計士コース (I 期・II 期・3 年次学生対象) 会計リサーチコース (I 期・II 期・3 年次学生対象) 10 月入学 公認会計士コース 会計リサーチコース
理学研究科	前期 2 年の課程	4 月入学 一般選抜 外国人留学生等特別選考 自己推薦 10 月入学 外国人留学生等特別選考
	後期 3 年の課程	4 月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選考 10 月入学 一般選抜 社会人特別選考 外国人留学生等特別選考
医学系研究科	前期 2 年の課程	一般選抜 (第 2 次含む)
	後期 3 年の課程	一般選抜 (第 2 次含む)
	修士課程	一般選抜 ヒューマン・セキュリティ国際教育コース (いずれも第 2 次含む)

	博士課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 研究医コース (いずれも第2次含む) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 (いずれも第2次含む)
歯学研究科	修士課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 (いずれも1次、2次あり) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜
	博士課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 腫瘍専門歯科医養成コース (いずれも1次、2次あり) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 腫瘍専門医科医養成コース
薬学研究科	前期2年の課程	4月入学 一般選抜 (2次含む) 推薦入学試験 外国人留学生特別選抜 10月入学 外国人留学生特別選抜
	後期3年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 (いずれも秋季・春季募集) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜
	薬学履修課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜
工学研究科	前期2年の課程	4月入学 一般選抜 推薦入学特別選抜 飛び入学特別選抜 早期卒業制度特別選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 10月入学 9月卒業課程選抜 早期卒業制度特別選抜 飛び入学特別選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜
	後期3年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜
農学研究科	前期2年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 (いずれも第1次、第2次あり) 外国人特別選抜 10月入学 社会人特別選抜 外国人特別選抜
	後期3年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 (いずれも第1次、第2次あり) 外国人特別選抜 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人特別選抜
国際文化研究科	前期2年の課程	(秋季) 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 外国人留学生海外出願特別選抜 (春季) 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜
	後期3年の課程	(秋季) 一般選抜 外国人留学生特別選抜 外国人留学生海外出願特別選抜 (春季) 一般選抜 外国人留学生特別選抜 進学者選抜
情報科学研究科	前期2年の課程	(上期) 4月入学 一般選抜 社会人選抜 外国人留学生等選抜 10月入学 一般選抜 (9月卒業課程、早期卒業含む) 社会人選抜 外国人留学生等選抜 (下期) 4月入学 一般選抜 社会人選抜 外国人留学生等選抜 早期卒業生選抜
	後期3年の課程	(上期) 4月入学 進学試験 一般編入学選抜 社会人編入学選抜 外国人留学生等編入学選抜 10月入学 進学試験 一般編入学選抜 社会人編入学選抜 外国人留学生等編入学選抜 (下期) 4月入学 進学試験 一般編入学選抜 社会人編入学選抜 外国人留学生等編入学選抜
生命科学研究科	前期2年の課程	4月入学 一般選抜 (自己推薦・I期・II期) 社会人特別選抜 (I期・II期) 帰国学生特別選抜 (I期・II期) 外国人留学生特別選抜 (I期・II期) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 帰国学生特別選抜 外国人留学生特別選抜
	後期3年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜

環境科学研究科	前期2年の課程	4月入学 推薦入学特別選抜 一般選抜 社会人特別選抜 高専専攻科学生特別選抜 サステイブル環境学国際コース 「ヒューマンセキュリティと環境」連携国際教育プログラム 10月入学 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 9月卒業課程特別選抜 早期卒業制度特別選抜 学部3年次及び3.5年次学生特別選抜 サステイブル環境学国際コース 「ヒューマンセキュリティと環境」連携国際教育プログラム
	後期3年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 サステイブル環境学国際コース 「ヒューマンセキュリティと環境」連携国際教育プログラム 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 サステイブル環境学国際コース 「ヒューマンセキュリティと環境」連携国際教育プログラム
医工学研究科	前期2年の課程	(秋季) 4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 早期卒業特別選抜 学部3年次及び3.5年次学生特別選抜 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 早期卒業特別選抜 学部3年次及び3.5年次学生特別選抜 (春季) 4月入学 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 早期卒業特別選抜 学部3年次及び3.5年次学生特別選抜
	後期3年の課程	(秋季) 4月入学 一般選抜(進学・編入学) 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 10月入学 一般選抜(進学・編入学) 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜 (春季) 4月入学 一般選抜(進学・編入学) 社会人特別選抜 外国人留学生等特別選抜
教育情報学教育部	前期2年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜 推薦入学特別選抜(いずれも第一期、第二期及び追加あり) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜
	後期3年の課程	4月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜(いずれも第一期、第二期あり) 10月入学 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜

大学調べ

別添資料 4-1-2-1	平成 26 年度入学者選抜要項 (抜粋) http://www.tnc.tohoku.ac.jp/jpn/other/senbatu-yoko/H26_senbatu-yoko.pdf
別添資料 4-1-2-2	東北大学 A0 入試
別添資料 4-1-2-3	平成 25 年度大学院入学者選考状況
別添資料 4-1-2-4	教育学研究科のアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法

【分析結果とその根拠理由】

学部、大学院とも本学の教育目的、アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が採用され、実質的に機能していると判断する。

特に、他の国立大学に先駆けて導入した A0 入試では、書類審査、筆記試験、面接試験等による丁寧な選抜を行っており、幅広い基礎学力と専門分野に対する高い学習意欲を備えた学生が入学している。また、科学オリンピック入試、国際学士コース入試等、多彩な選抜方法により多様な学生を受け入れており、本学が求める学生像に一致した学生を適切に受け入れていると判断する。

観点 4-1-③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点に係る状況】

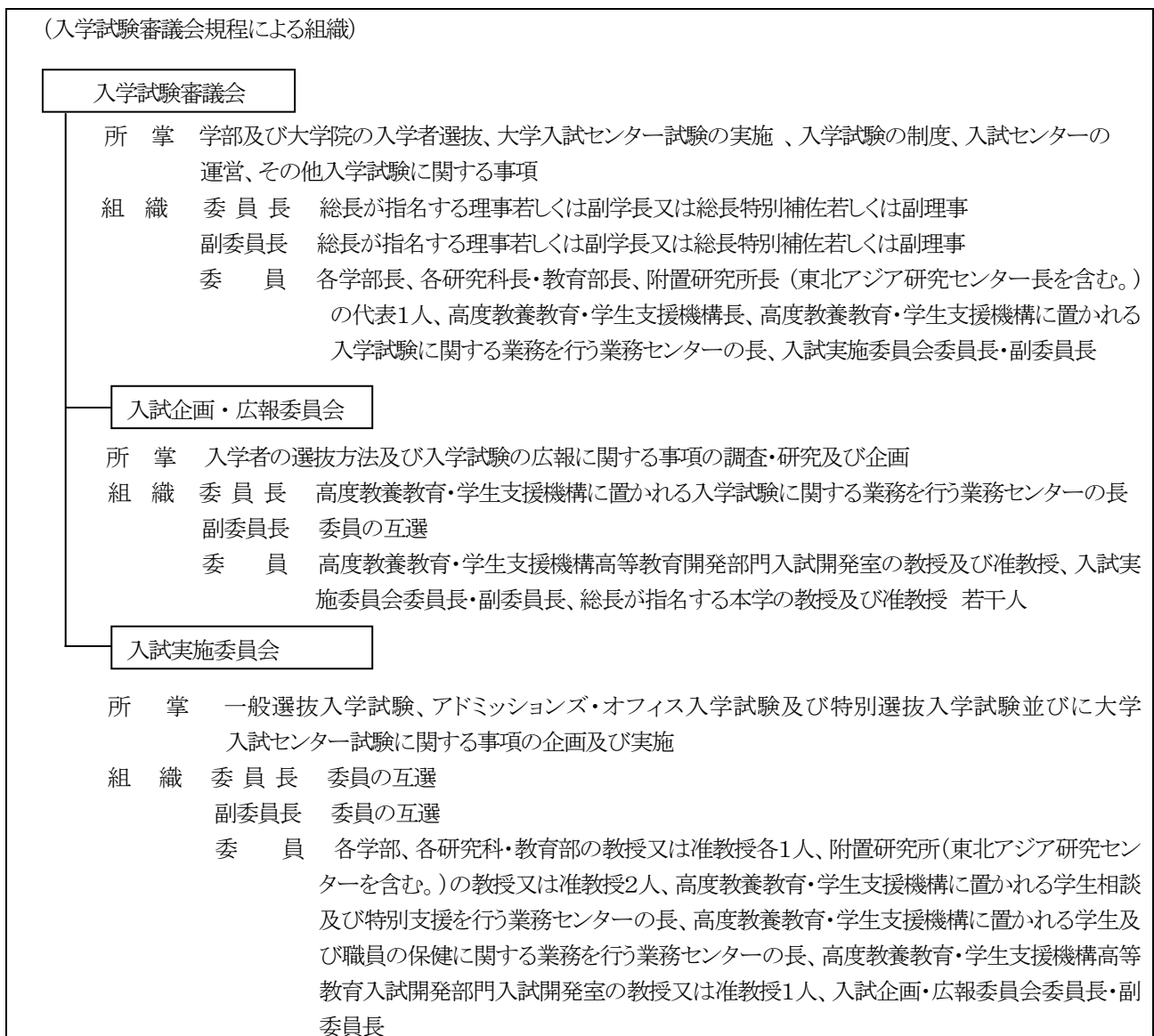
学部学生の入学者選抜を実施するために、学部長・研究科長等を構成員とする入学試験審議会が設置されている（前掲：資料 4-1-①-3）。また、入学試験審議会の下には、入試企画・広報委員会及び入試実施委員会の2つの委員会と入学試験実施本部が置かれている（資料 4-1-③-1）。

入学試験問題の作成は、学部入試問題作成ハンドブックに基づき、試験実施教科・科目に関する教育研究経験を豊富に有する教員が担当し、適正な実施に努めている。また、試験監督方法等は学部入試実施要領として統一的に定めており、公正な試験が実施できるようにしている（資料 4-1-③-2、別添資料 4-1-3-1）。

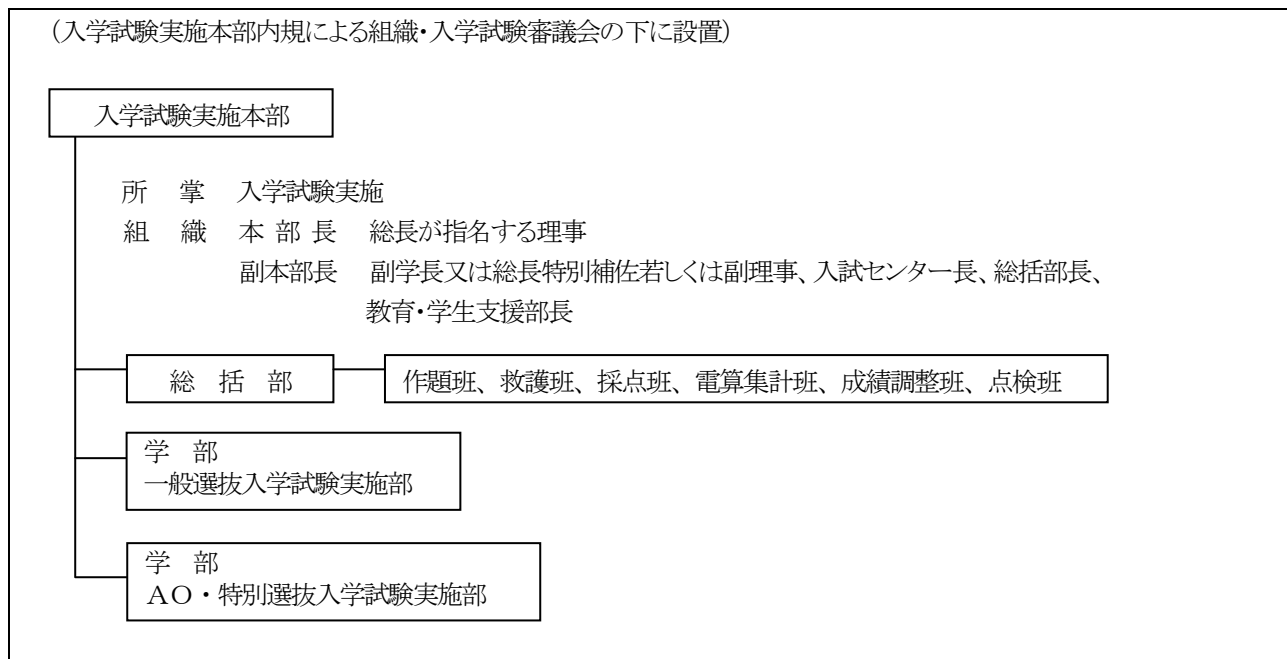
試験当日は、学部入試実施要領に基づき学部長を責任者とする入学試験実施部を設置し、公平・公正で、かつミスの生じない体制で実施しており、入学試験合否判定は、各学部の教授会の議を経て、入学者選抜会議が行う。

大学院の入学者選抜も、大学院入試対応指針に基づき、各研究科等に入試実施委員会を設置し、学部と同様の実施体制の下で入学者選抜を実施し、公正な実施を図っている（別添資料 4-1-3-2）。

資料 4-1-③-1 入学試験実施組織図



(入学試験実施本部内規による組織・入学試験審議会の下に設置)



資料 4-1-③-2 学部入試実施要領(東北大学入学試験実施本部作成・目次のみ)

この実施要領は、一般入試個別学力試験における業務を中心に、その細目について定めたものです。
 学部実施部における事前の準備業務、当日の業務等については、この要領に基づき、万全を期して実施するようお願いいたします。
 なお、この実施要領により難しい場合は、入学試験実施本部と協議することとします。

学部実施部が担当する業務

1. 事前の業務
2. 試験実施当日の業務 (1)点検事項 (2)交通機関の事故又は災害等の場合の措置 (3)受験票の取扱い
3. 試験場設営及び撤去業務

入学試験実施業務担当者配置基準

入試における不測の事態対応マニュアル

監督要領

1. はじめに
2. 試験実施時刻表
3. 監督実施方法
4. 教科(科目)別発言事項等
5. 参考(1)問題冊子、解答用紙の種類及び枚数一覧 (2)学部別試験実施時刻一覧 (3)欠席者調、答案表紙、受験票 (4)学部別受験記号番号及び試験場一覧 (5)受験者の皆さんへ(受験者への周知事項) (6)試験場・試験室等配置図

各種様式等

- (1)欠席状況一覧表 (2)大学入試センター試験受験票不携帯者名簿等 (3)配付物点検表(例) (4)入学試験実施業務担当者出勤簿(様式) (5)試験場本部板書(例)

AO入試・推薦入学実施方法

合格者決定プロセス

大学調べ

別添資料 4-1-3-1 「学部入試問題作成ハンドブック」

別添資料 4-1-3-2 「学部編入学試験及び大学院入試対応指針」

【分析結果とその根拠理由】

学部の入学者選抜に係る実施要領等の作成、試験問題の作成、試験の実施、答案の採点及び合格者決定までの業務は、入学試験審議会が一元的に企画・実施している。

これらのことから、入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されていると判断する。

大学院入試においても、各研究科等が学部入試同様の体制により実施していることから、公正に実施されていると判断する。

観点 4-1-④： 入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

入学試験審議会の下に設置されている入試企画・広報委員会には、各種のワーキング・グループが設置されており、入学者選抜方法の改善に関連する事項の調査研究、入学者選抜に関する広報、入試情報の公開に関することなどを検討し、アドミッション・ポリシー及び実施方針の見直しを行っている。そして「東北大学入学者選抜方針」を毎年更新して入学者選抜の改善に努めている。

また、入試企画・広報委員会は、入学試験の結果、入学後の学業成績追跡調査、高校教諭との意見交換等を踏まえて、別添資料 4-1-4-1 に示すとおり入学者選抜に関する検証及び改善を行っている。

大学院においては、各研究科等が独自に検証を行っており、必要に応じて入学者選抜方法を改善している。例えば、生命科学研究科においては、平成 25 年度の博士前期課程入学者から「自己推薦入試」という新たな制度を導入し、他大学出身の優秀な学生の確保に努めている（別添資料 4-1-4-2～3）。また、法学研究科においては、平成 23 年度から博士後期課程に、法科大学院修了者（法曹資格取得者）を対象とし、実定法研究者の養成を目的とした「後継者養成コース」、研究教育の国際化を推進するため外国研究教育機関と連携する「国際共同博士課程コース」及び従来型の「法制理論研究コース」の 3 コース制を導入し、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行ってきた（別添資料 4-1-4-4）。

別添資料 4-1-4-1	学部入学者選抜における改善事例
別添資料 4-1-4-2	平成 24 年度部局自己評価報告書（生命科学研究科：抜粋）
別添資料 4-1-4-3	生命科学研究科 HP（入試情報）
別添資料 4-1-4-4	法学研究科 HP

【分析結果とその根拠理由】

学士課程の入学者選抜については、入試企画・広報委員会が、入学者選抜に関係する各種実施方針の改善を図っており、本学の理念、目的に沿った入学者選抜の検証及び改善の取組が行われている。

大学院課程の入学者選抜に関する検証・改善についても、各研究科において取組が行われている。

以上のことから、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取り組みが行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断する。

観点 4-2-①: 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

本学における入学定員に対する実入学者割合は、平成 25 年度において、学部全体では 104.6%、大学院では、修士課程が 106.2%、博士課程が、79.8%、専門職学位課程では 65.3%となっている。学部と修士課程は 100%をわずかに上回る適切な状態である。しかし、一部の研究科では博士課程の実入学者数が定員を下回っており、専門職学位課程も定員より 34.7%下回っている（資料 4-2-①、大学現況票別紙様式（「平均入学定員充足率計算表」を含む））。入学手続き者が入学定員に満たない場合には、学部学生については追加合格を行い、大学院学生については 2 次募集等を実施するなど、入学者確保に向けた取組を実施している。

博士課程及び専門職学位課程については、入学定員を下回っていることから、入試方法の見直しや入試広報の拡充、入学定員の見直し等を行い、適正化に努めている。特に法科大学院では、平成 26 年度から入学定員を見直したことにより、入学定員充足率が回復傾向となり、専門職学位課程全体では 65.3%から 76.7%となった（大学現況票別紙様式「平均入学定員充足率計算表」を含む）。

さらに、大学院課程では、平成 20 年より大学院教育に関するワーキング・グループを設置し、その間定員充足状況等に関して各研究科の取り組み等を調査のうえ、今後の大学院教育の更なる充実・強化の方策を以下のとおり検討してきた。

- ・修士号取得あるいは、専門職業人としての勤務歴を有する社会人を後期課程へ編入学できるよう、選抜方法の工夫、在学中の計画的な履修（長期履修）等を整備。
- ・外部資金を活用し、TA や RA で雇用することによる安定的な経済支援の実施。また、一部の研究科（専攻）においては、独自に奨学金を整備し授業料を一部補助。
- ・入試説明会等を通じた広報活動の充実。

さらに、入試制度の観点からは、以下のとおり見直しを行った。

- ・入学定員の見直し（法学研究科、歯学研究科、環境科学研究科、法科大学院）。
- ・10 月入学の導入（医学系研究科、国際文化研究科、生命科学研究科、医工学研究科、教育情報学教育部）。
- ・法学研究科博士後期課程における新コースの設置。
- ・環境科学研究科博士前期課程における高専専攻科学生に限定した特別選抜の実施。

資料 4-2-① 入学定員充足状況

	25 年度			24 年度			23 年度		
	定員 A	入学者 B	B/A (%)	定員 A	入学者 B	B/A (%)	定員 A	入学者 B	B/A (%)
学部全体	2,396	2,507	104.6	2,386	2,516	105.4	2,381	2,487	103.6
修士課程	1,773	1,883	106.2	1,773	1,839	103.7	1,773	1,950	110.0
博士課程	828	661	79.8	828	708	85.5	832	714	85.8
専門職学位課程	150	98	65.3	150	125	83.3	150	139	92.7

大学調べ

【分析結果とその根拠理由】

入学定員に対する実入学者数との関係については、大学現況票に示されるように、博士課程等において、一部の研究科で下回る状況にある。

このことについて、本学では定員充足率状況等に関して大学院教育に関するワーキング・グループを設置し、

各研究科の取り組み状況等を調査のうえ、今後の大学院教育の更なる充実・強化の方策を検討してきた。また、新しいコースの設置や入学定員の見直しを行うなど、更なる改善を図っている。

以上のことから、入学定員に対する実入学者数との関係について改善を図っていると認められる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・他の国立大学に先駆けて導入したAO入試を、すべての学部で実施している。アドミッション・ポリシーに沿って、専門分野への関心や学習意欲に加え、学力も重視した丁寧な選抜を行い、幅広い基礎学力と専門分野に対する高い学習意欲を備えた学生が入学している。さらに「科学オリンピック入試」や「国際学士コース入試」等、多様な選抜方法により多彩な学生が入学しており、本学が求める学生が適切に見出されている点が優れている。

【改善を要する点】

- ・学士課程及び博士前期・修士課程全体では適正な実入学者数となっているが、博士前期課程において0.7倍未満、1.3倍以上の研究科があり、博士後期課程においては、複数の研究科が0.7倍未満となっている。さらに専門職学位課程においては、法科大学院入学者の著しい減少により、課程全体としても0.7倍に満たない状況になっているが、法科大学院の入学定員見直しにより、入学定員充足率が回復傾向にあり、課程全体の改善につながっている。その他の課程においても、実入学者数の適正化に向けた検討・取組を行っているところであるが、今後、社会ニーズ等も踏まえた、さらなる改善が必要と思われる。